

文学教材を豊かに読ませるための学習指導の工夫

—— 主体的な学習活動を通して ——

目 次

I	テーマ設定の理由	119
II	研究仮説	119
III	研究の全体構想図	120
IV	文学教材の指導	121
1	文学教材の読みの指導で培うべき能力	121
2	六年年の精選・重点化した目標と具体化した指導内容	121
V	主体的な学習法	122
1	主体的な学習法とは	122
2	主体的な学習に向けての学習課題づくり	122
3	一人学習	123
4	磨き合い学習	125
VI	豊かに読ませるための指導の工夫	126
1	豊かに読むとは	126
2	想像豊かな読みをめざす各学年の能力	126
3	豊かに読ませるために「書く活動」を取り入れるねらい	127
4	書く活動の特質	127
5	書く活動を位置づけることにより期待できる主な効果	127
6	主な書く活動と読みの技能、効果の関わり	128
7	基本的な読みの指導過程	129
VII	指導の実際	131
1	単元名	131
2	単元設定の理由	131
3	単元目標	132
4	指導内容	133
5	教材名	133
6	教材研究の基礎的研究	133
7	指導的研究	134
8	本時の指導	139
VIII	まとめと今後の課題	142
	主な参考文献	142

宜野湾市立嘉数小学校

長 田 千代子

文学教材を豊かに読ませるための学習指導の工夫

—— 主体的な学習活動を通して ——

宜野湾市立嘉数小学校教諭 長 田 千代子

I テーマ設定の理由

新学習指導要領には、「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図るとともに、基礎的 基本的な内容の指導を徹底し、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」とあり、個性を生かす教育の充実が大きくとりあげられている。

国語科においても、思考力や想像力を養うことが加えられ、叙述に即して読み取る力、表現力を高めることなどが重視された。では、豊かに読ませるための文学教材の指導は、どうあるべきだろうか。

これまで、一人一人の児童が主体的に学習する過程で、目標達成できるような文学教材の指導を試みてきた。その結果、子ども達は作品に対してある程度自分なりの感想や課題を持ち、文学教材を読み深めていこうとする心構えが見られるようになった。また、視写や書き込みなどを喜んでやり、学習後は作品の続き話を作るなど意欲的に取り組むようになってきた。しかし、重要語句、心情描写、情景描写などをしっかりおさえて、行間から気持ちを豊かに想像し深く読み進め、主題へ迫ることにおいては、まだ弱さが見られる。その原因として、次のような反省点が挙げられる。

- ・教材研究が不十分で、何を指導すべきか教師自身がしっかりと把握していなかった。
- ・教師中心の授業展開になりがちで、「児童が自ら気づき、考える」という場の設定が十分でなかった。
- ・主体的にイメージ豊かに読み味わい、楽しく学習できるような学習指導の工夫が足りなかったため、表面的な読み取らせて終わりがちであった。

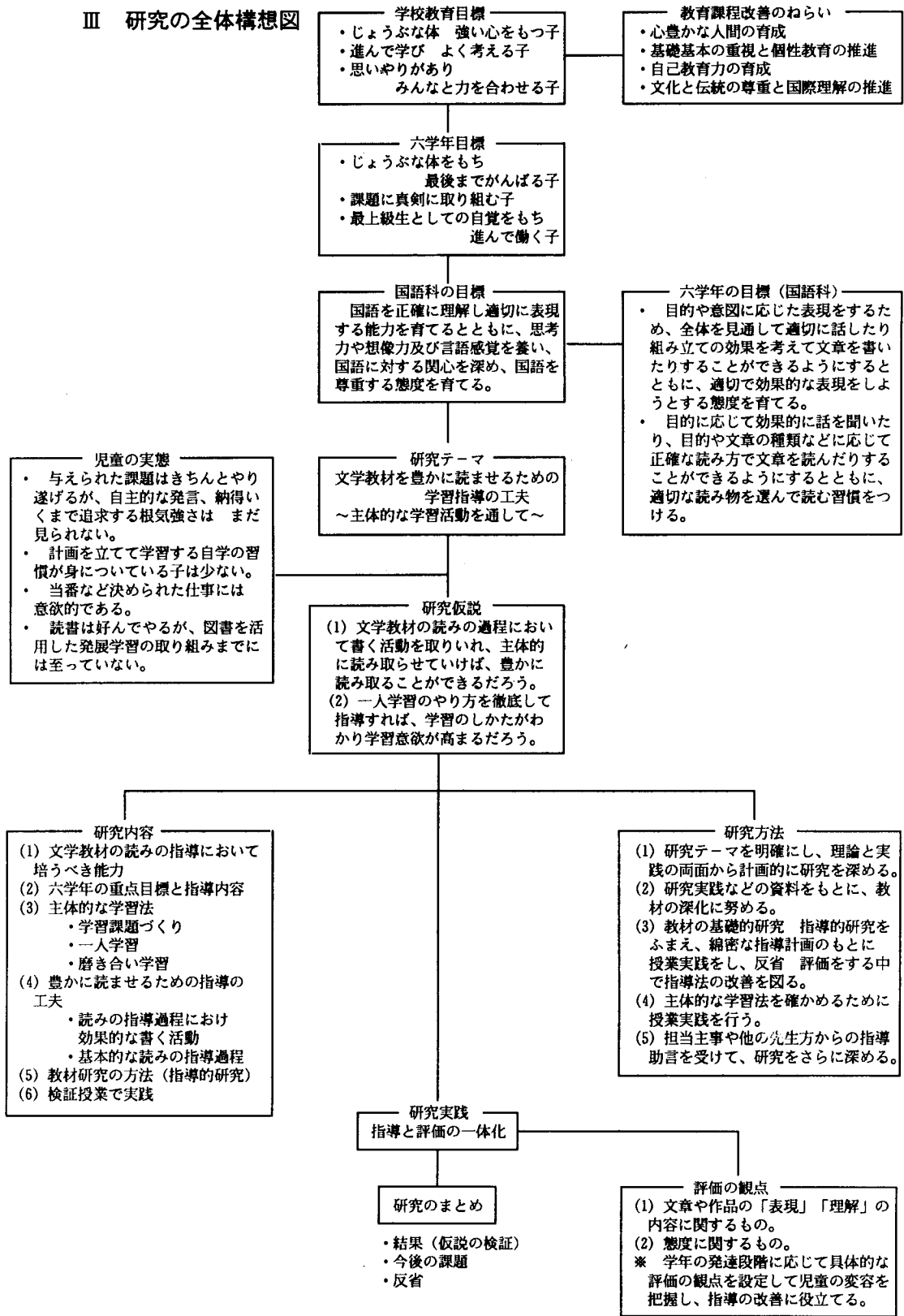
このような反省点をふまえ、読みの過程で児童を主体的に学習に関わらせながら、これまでの指導法の改善充実を図りたい。教材研究の際は、学年で培うべき中心的な能力を把握し、児童にどんな技能や能力を培えばよいかを明確にし精選する。指導過程の各段階では、指導目標と児童の実態に合った適切な書く活動を取り入れ、それに基づいた授業を行う。学習過程においては、目的意識 課題意識を持たせ、一人学習や磨き合い学習などで課題追求をさせる。そこで、児童の能力に合った助言や意欲的に取り組ませる手立てを十分に施すことにより、主体的に読み進め豊かに読み味わうものとする。

一人一人の児童が、集団の中で主体的に学習に取り組み、互いに影響を及ぼし合って、自らを伸ばしていく力を育てることを目指して研究に取り組みたい。

II 研究仮説

1. 文学教材の読みの過程において書く活動を取り入れ、主体的に読み取らせていけば、豊かに読み取ることができるだろう。
2. 一人学習のやり方を徹底して指導すれば、学習の仕方がわかり、学習意欲が高まるだろう。

Ⅲ 研究の全体構想図



IV 文学教材の指導

国語科において、文学教材を読み取らせる意義は、文学教材の表現機能を生かしながら、言語の能力を伸ばすことが基本となり、読み手の直観性や想像性を育て、ものの見方・考え方をみがき豊かな人間形成に役立つことである。

確かに豊かな読みの力をつけるために文学教材を読ませていくが、その際に、発達段階をふまえた各学年の重点能力を明確につかんでおくことが大切である。「文学教材の読みの指導で培うべき能力」と「各学年の目標、具体化した指導内容」を確認しながら、教材研究と指導法の改善に努めていきたい。

1 文学教材の読みの指導で培うべき能力

文学教材の読みの能力	6 年
1 問題をつかむ力	主題に迫るための問題を確実にさせて
2 あらすじをとらえてまとめる力	
3 順序を考えて読む力	
4 音読をする力	
5 文脈に即して語句の意味をとらえる力	
6 叙述に即して内容を正しくとらえる力	文章の叙述に即し細かい点にまで注意して正確に
7 場面相互の関係や語の構成に注意して読む力	山場と他の部分、全体とのつながりを考えて
8 想像する力	優れた描写や叙述を味わいながら
9 主題をつかむ力	作品の訴えようとしていることを確実に
10 表現の工夫に気づく力	表現の方法
11 優れた表現を味わう力	表現の優れている文や文章を
12 感想をまとめる力	自分の生活や意見とのかわりで
13 批判的に読む力	自分の考えをはっきりさせて
14 読み取り方のちがいに気づく力	
15 感じ方や考え方の変容に気づく力	自分の感じ方、考え方がどのように変わったか
16 朗読する力	内容がよく味わえるように
17 読書する力	適切な物語を選んで

教育センター第98号「文学教材研究の方法」参考

2 六学年の精選・重点化した目標と具体化した指導内容

精選・重点化した目標

表現に即して人物の気持ちや情景を味わい、主題を(確実に)読み取り、読み取ったことに対して自分の生活や意見と比べて感想を深めることができる。



目標を具体化した指導内容(基本)

- 1 主題に迫るための学習問題を設定すること
- 2 場面ごとの人物の気持ちや情景のつながりを考えて読むこと
- 3 主題を(確実に)読み取ること
- 5 人物のものの見方・考え方・感じ方について、自分の考えをはっきりさせて読むこと
- 5 読み取ったことに対して自分の生活や意見と比べ感想を深めること
- 6 聞き手にも内容がよく味わえるように朗読すること
- 7 目的に合った適切な本を選び効果的に読むこと



言語事項(基礎)

- ・ 語句の意味を的確に理解して
- ・ 語句と語句のつながりに気をつけて
- ・ 場面相互の関係に気をつけて
- ・ 助詞、助動詞のはたらきに気をつけて

上記のように、精選・重点化した目標と具体化した内容を位置づけて文学教材を指導したとき言語能力が育成でき、豊かな読み深い読みへつながるものと考えている。

V 主体的な学習法

1 主体的な学習とは

学習者が主体となって、自発的・自主的に学習に取り組むこと。常にめあてを定め課題意識をもち、自分の意志に基づいて進んで学習することである。同じ知ることであっても、漫然と授業を聞き教えられるという一方的な注入よりも、目的意識をもたせて学習させ学びとったことを生かすことで、学習者の意識は高められより主体的となる。

主体的な学習の原動力となるのが、学習意欲の喚起、学び方の手立てをしてあげることだと考える。学習意欲、学び方を育てるためにも、本来子供達が持っている知的欲求、探究心、豊かな発想をうまく引き出して、学習課題を自ら見つけさせたい。課題に対して意欲的に取り組むことこそ主体的な学習である。

2 主体的な学習に向けての学習課題づくり

(1) 学習課題づくりの意義

読みの指導で大切なことは、叙述に即して読み取らせ、豊かなイメージを思い描かせることである。そのためには、文章を読ませるという受け身的な読みではなく、主体的な読みをさせることである。

課題づくりをしていくことは、教材を自分のものとして捉えることができるので、学習意欲が高まる。また、学習の目標を持ち積極的に学習に取り組むことができるので、作品の読みを深めることになる。さらに、教材の内容を整理しながら自分の考えをまとめることができるので、一人学習の喜びをつかむことができる。

読みに対する子供の興味・関心、意欲をかきたて、文学教材の優れた内容価値と児童の見方考え方、感じ方をしっかりと結びつける手立てを工夫し、学習のねらいを達成できるような課題が作られるならば、読みの意欲が高まり主体的な読み深まりのある読みになるものとする。

(2) 学習課題の条件

学習課題づくりは、主体的な国語学習を促す方法であるが、課題解決により言語能力を高めることもねらいのひとつである。国語科における学習課題の条件として主なものをあげてみた。

- ・教材の内容価値や指導のねらいと深く関わるもの。
- ・児童の学習への期待や感動、疑問などの問題意識に支えられているもの。
- ・教材の内容に即しているもの。
- ・児童の興味を注ぐような具体的なもの。
- ・文章の表現を手がかりにして思考の働くような問題。
- ・解決しなければならないことが明確に捉えられるもの。
- ・作者について調べる、同一作者の同一テーマの作品を読むなどの発展学習が期待できるもの。

(3) 課題づくりの方法・手順

学習課題は、教師の指導目標と密接に関連しているものになっていなければならない。よい課題を作らせるには、まずよく読ませることであり、よく読むということが課題作りの基本である。しかし、読みが十分とは言えない指導計画の初めの段階で、児童一人一人により課

題を作らせるには、教師の適切な手立てが必要である。主な手立てとして、

- ① 題名やさし絵から内容を予想させたり疑問を持たせたりする。
- ② 初発の感想で疑問に感じたことから課題を作らせる。
- ③ 学習の手引きを生かす。
- ④ 文章を読んで、はっきりしないことや疑問に思ったことから課題を作らせる。
- ⑤ 文章を読んで、さらに知りたいと思ったことから課題を作らせる。

課題づくりの手順は、下記のように考えている。

題名読み — 全文通読 — 初発の感想 — 単元の目標 — 個人課題
— 共通課題 — 学習の見通しをもつ

学習課題は、指導計画の初めの段階で作られるが、学習していく過程で課題を追求していきながら、新たな疑問などを捉えて課題作りをすることもできる。それは、読みが十分に行われ児童一人一人が話し合い考え合う中で作られる課題であるので、教材を読み深め発展させていくことを期待できるものとする。

課題追求においては、話し合いの仕方をわからせ、話し合い活動における磨き合いを通して考えを深めるよい機会としたい。また、個別指導により、一人一人の学習の手助けを心がけたい。

3 一人学習

教師の問いかけに対して、子供達がさまざまな考えを出し合い、どこまでも追求していく授業は、だれもが望むことである。そういう授業をするには、教師の豊かな教材解釈が必要であると同時に、子供達が自ら追求する課題を持ち主体的に教材を読む時、初めて集中しひびき合う授業が生まれると考える。

一つ一つの文や言葉を味わい、さまざまな疑問をもち考えながら読む、いわゆる主体的な読みをさせるために、一斉学習に入る前に一人学習をさせることにした。

一人学習の方法 —

	・ 1 単位時間の中での一人学習
	・ 学習課題（共通課題）設定後の一人学習
	・ 家庭学習や朝自習における一人学習

- ・ 場面ごとや単元の共通課題が設定された後、2 時間程一人学習の時間を与え、課題の解決にあたらせる。その後、全員での学習を始めると、より活発な磨き合い学習ができ深い読み取りができる。
- ・ 新しい教材に出会ったとき、学習が始まるまでに、自分でこれだけは進んで調べておいた方が、より効果的な楽しいわかる学習につながると思われる予習ができるように、次のような一人学習の手引きを作成し配付した。そして、自学自習を促すよう配慮した。

(1) 一人学習の手引き

学習の順序		一人学習のしかた	
1	題名読みをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・題名から予想したことをまとめる。 ・どのような内容が書いてあるか想像する。 ・題名について知っていることを書く。 	
2	全文を読む。 (通読)	<ul style="list-style-type: none"> ・すらすら読めるように声に出して読む。 ・どんな筋であるかを簡単にとらえる。 ・わからない漢字や語句に線を引ながら読む。 ・不思議に思ったところ、感動したところ、もっと調べたいところにサイドラインを引いたり、書き込みをしたりする。 	
3	新しい漢字の練習 言葉の意味調べなどをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の練習をする。 ・わからない言葉の意味調べをする。 ・部分視写をし、感想、意見、疑問などの書き込みをする。 	できるだけ辞典を利用しよう。
4	あらすじを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物をつかむ。 ・場面分けをし場面ごとの移り変わりをつかむ。 ・登場人物のやったことや気持ちに気をつけてあらすじを書く。 	主題の予想もできるとよい。
5	初発の感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・読んで感じたこと、強く心をうたれたことおもしろかったこと、不思議に思ったことなどを書く。 	
6	学習課題を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと調べてみたいことを中心に学習の課題を作る。 (初発の感想や題名から) (場面のようすから) (登場人物の行動や気持ちの表現から) 	各場面から学習課題が作れるとよい。
課題に向かっての学習の方法や手順を知り、学習の見通しをもつ。			
7	一人調べをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題について一人調べをする。 ・サイドライン、書き込み、抜き書き、心情曲線、図などを工夫して考えをまとめる。 ・なっとくするまで教材文を何回も読む。 ・朗読の工夫をする。 	
8	磨き合い確かめ合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人学習をもとに、友達と比べ合い、磨き合いをし、課題に迫る。 ・大事な言葉をおさえながら、自分の読みを発表し、読みを深める。 ・わかったことやすぐれた文章表現を出し合い、自分の読みをまとめる。 ・内容を味わいながら朗読する。 	友達と自分の考えを比べながら聞く。 補い書きは赤でやる。
9	主題について考えまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・作者が作品の中で一番言いたかったことを考えまとめる。 	
10	感想をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・作品全体をふりかえり、登場人物と自分の考えを比較させながら感想を書く。 ・作者の心について、感想が深められるよう書く。 	初発の感想より深まった感想が書けるとよい。
11	まとめと練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や言葉、言葉のきまりなどの練習をする。 ・好きな場面を視写する。 	
12	学習を生かす。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習をもとに他の作品を読み、作品のよさについて味わう。 ・お互いに図書紹介をし、本をたくさん読む。 	同一作者の作品など、できるだけたくさん読もう。

(2) 一人学習ができるためのワークシートの活用

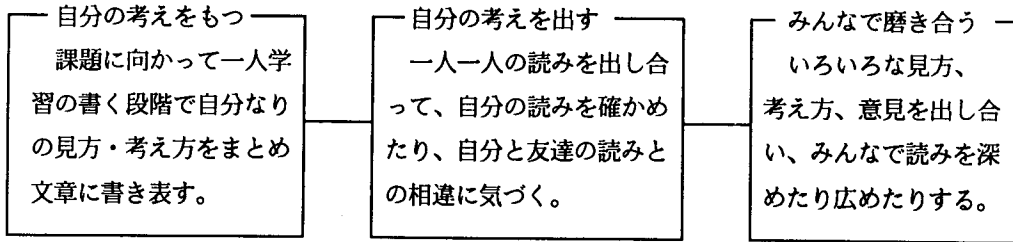
一人学習とは、学ばせ方、今日のいう学び方指導の一つであり、児童の自主的・主体的な学習である。主体的な学習といっても、そこには、教師の適切な指導が必要であり、児童の一人学習のあとをよく見て評価し、励まし、学習への意欲づけをしなければならない。

そこで、児童の学習のあとが見られ適切な指導ができるのが、ワークシートの活用ではないかと考えた。ワークシートを活用することによって、教師は一人一人の児童の学習状況が把握でき適切な指導や賞賛を与えることができる。児童にとっては、学習をふり返り反省を加えたりすることで、より深く確かな読み豊かな読みが可能になる。これらのことは、児童の学習意欲や主体性を育て、積極的な学習態度の育成にもつながると考える。ワークシートの内容には学習の計画、視写、漢字、語句、初発の感想、課題づくり、書き込み、学習記録などがある。

4 磨き合い学習

一人学習でまとめられた子供達の見方・考え方・感じ方は、それぞれ違い、中核に迫る読みもあれば部分的・断片的な読みもある。そこで、一人学習をもとに友達と比べ合い、磨き合いをさせることにより、それぞれの読みの違いや友達の読み方、読みの深さ、広さなどに気づかせ、さらに質の高い学習の仕方を身につけさせることができるのではないかと考えた。

(1) 磨き合い学習の過程



(2) 磨き合い学習の場

磨き合い学習が全員参加のより効率的・効果的で充実したものになるために、次のような点に留意したい。

- ア. 何を磨き合わせるのか。(対立意見や多様な考えが出しやすいところ)
- イ. どこで磨き合わせるか。
- ウ. どのように磨きあわせるか。(一斉学習、グループ学習等)
- エ. どこまで磨き合わせるか。(到達点を明示し、子供自身の考えを高めさせる)

VI 豊かに読ませるための指導の工夫

1 豊かに読むとは

読みの指導においては、作品に描かれている人物や場面の情景を想像することがうたわれており、想像を働かせて読ませることを重視している。想像を働かせて読むということは、表現に即して深い読みや幅の広い読みができ、場面の情景や人物の心情などを多様に捉えることができるということである。それが豊かな読みを実現することになる。

つまり、「豊かに読む」とは、言葉に触発されながら語感を磨き、イメージを豊かに描き、「行間を読む」ことだと考える。

2 想像豊かな読みをめざす各学年の能力

学年	指 導 事 項
一年	(オ) 場面の様子を想像しながら読むこと。
二年	(カ) 人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読むこと。
三年	(カ) 人物の性格や場面の情景を想像しながら読むこと。
四年	(カ) 人物の気持ちの変化や場面の移り変わりを想像しながら読むこと。
五年	(オ) 人物の気持ちや場面の情景の叙述や描写を味わいながら読むこと。
六年	(カ) 優れた描写や叙述を味わいながら読むこと。

子供達は文学教材を読む時、話の筋の展開や場面ごとの登場人物の様子を思い出し、想像しながら読むことが多い。想像しながら読むことにより、豊かで楽しい読みが期待できる。豊かに読ませるために次の点に気を付けて指導を行いたい。

- ・ 文章の筋や事件・事柄などを知的・論理的に読み取るという読み方ではなく、場面の情景・人物の性格・心情などについて想像を働かせて読み味わう。想像は文章の表現に即してなされるようにする。
- ・ 文章を読んで理解したこと、考えたこと、感じたことなどを書くことにより「豊かな読み」ができるようにする。
- ・ 場面の情景・人物の性格・心情等についての感じ方・考え方は、一人一人違いがある。これを書いてまとめ、発表し合い、話し合うことによって、友達の考え方や感じ方と自分の考え方や感じ方の相違に気付くことができる。その結果として、自分の考え方を変えたり、深めたり広めたりできるようにする。
- ・ 文章の内容を豊かに読み味わわせる読みの方法として、表現に即した音読・朗読の工夫をさせその機会を多くする。これによって、場面の情景・性格・心情等を感覚的に読み味わうことができるようにする。

3 豊かに読ませるために「書く活動」を取り入れるねらい

「書く」ということは、深く考える活動を伴う。深く考えるということは、作品の深い読み取りなしにはありえない。作品を読み取り、わかったことや感動したことなどを自分の言葉で書かせる。このような学習を通して、一人一人の主体的な学習が成立し学習に対する積極的な関心の高まりも期待できる。また、表現の優れている文章を視写することによって、言葉の選び方、表現の巧みさ、文体や文末表現の仕方などを身につけ、より深い読みへと高められていく。そういう学習を可能にするのが、「書く活動」だと考える。書いたことをもとに話し合うことで、多くの子供の個性あふれる感動の言葉が交わされ、相互に啓発し合って、さらに感動が深まり広まっていく。このような過程を通して豊かな読みが育つであろう。

4 書く活動の特質

- (1) 問題を解決し学習の見通しを持つことができる。
- (2) 個別化が図れる。
- (3) 学習の変容を捉えることができる。
- (4) 評価や指導計画の改善に生かせる。

以上のように、書く活動では話し合いだけの学習の欠点を是正し、叙述に即して細部まで読むことを通して、個別化・主体化を図っていくために多くの利点を持っている。授業の中に書く活動を取り入れ充実したものにするために、次のような点に留意したい。

- ・ 能力や実態に応じてワークシートを作成するなどの配慮をしたい。また、机間指導の計画を立てておき、一人学習中机間指導して助言カードを配るなど手助けをしたい。
- ・ 書く活動のねらい、やり方を明確に理解させ、書く活動を能率的に進めるために必要な辞書事典類については、教室にコーナーを作りいつでも利用できるようにしておきたい。
- ・ 書く活動を一時間の中のどこで扱い、どのような観点でできあがったものを生かしていくか考えたい。

5 書く活動を位置づけることにより期待できる主な効果

- ・ 話し合い中心で一部の子のみが発表していた学習から、一人一人が主体的に取り組む全児童参加の学習が行われる。
- ・ サイドラインを引いたり、書き込みをしたり、感想をまとめたりすることで理解が深まり考えがまとめやすくなり、発表にも生かすことができる。
- ・ 文を詳しく読み、心のつぶやきを書き込み感想を交流する中で、友達の考えに刺激されて感動を深めることができる。
- ・ 児童一人一人が読みのめあてを持ち、自分の力で解決する個別的な学習が成立できる。教師は、個別指導によって一人一人の学習の手助けができる。
- ・ 書く活動は、小学校の児童の興味・関心や発達段階に適している。吹き出し、書き込み、絵画化等で、楽しく豊かに行間を想像し読み味わうことができる。
- ・ 読みの過程で書く活動を積み重ねることにより、そこで培った力が作文の表現力に生きてくる。

6 主な書く活動と読みの技能、効果の関わり

書く活動	学習法の内容	読みの技能	読みの効果
絵すじ法	<ul style="list-style-type: none"> 物語の展開を簡単な絵にしながら、事件の筋や人物の心情を捉えさせる。 	時間的な順序や場面の移り変わりを読むことができる。	作品の筋をより明確におさえることができる。
問題作り法	<ul style="list-style-type: none"> 疑問に思ったこと、みんなで話し合ってみたいことをまとめさせる。 	重要語句に気付き主題に迫るための読みができる。	読みのめあてをもつことにより、主体的な学習ができる。
書き加え法	<ul style="list-style-type: none"> 場面の様子や人物の気持ちなど読み手の想像したことを行間やノートに書かせ、それをもとに話し合わせる。 	人物の気持ちや場面の様子を想像して読むことができる。	発表に自信のない児童も、書いたものが裏付けとなり発表するようになる。
サイドライン法	<ul style="list-style-type: none"> 気持ち、行動、情景などのわかる所に線を引かせ、話し合わせて心情を読み取らせる。 	人物の気持ちや情景を想像しながら読むことができる。	課題作りの手がかりや情景描写、気持ちを詳しく読み取る力がつく。
抜粋法	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に迫る会話や行動などを抜き書きさせて、文章の内容を捉えさせる。 	作品の訴えようとしている中心内容を読むことができる。	サイドラインした箇所を抜き書きしたり、カードにまとめたりして主題を捉えるようになる。
心情曲線法	<ul style="list-style-type: none"> 行動や会話などを手がかりにして、人物の心情の変化を曲線で捉えさせて読み取らせる。 	人物の気持ちを想像しながら読むことができる。	主体的に読み深める力がつけられる。
構造図法	<ul style="list-style-type: none"> 文章に書かれていることを小見出し法、抜粋法などと組み合わせて図表化させ、それをもとに話し合わせる。 	文章の中心になることをつなげて主題を読むことができる。	文章の内容の読み取りや要約する力がつけられる。
小見出し法	<ul style="list-style-type: none"> 場面、事件、人物の推移や変化を短い文や語句で見出しをつけさせて、要点を話し合わせる。 	短い言葉や文で内容をまとめることができる。	文章を要約する力がつけられる。
絵画法	<ul style="list-style-type: none"> 場面の様子や人物の気持ち、行動などを読み取り、想像したことを絵に描かせて話し合わせる。 	場面の様子や人物の気持ちを想像しながら読むことができる。	絵画で表現することによって情景や気持ちを読み取る力がつけられる。
感想文法	<ul style="list-style-type: none"> 読後の感想を書かすことによって、自分の考えを整理し思考をふくらませる。 	読み取ったことに対して、自分の考えをまとめたり自己の生き方を考えたりする力を養う。	初発の感想においては、読みの力を知ることができ、終末感想においては、読み取りの結果を知ることができる。
朗読法	<ul style="list-style-type: none"> 場面の様子や人物の気持ちが開き手にもよく伝わるように朗読させる。 	場面の様子や人物の気持ちを想像しながら読むことができる。	叙述に即して深い読み取りができる。
続き話法	<ul style="list-style-type: none"> 作品を詳しく読み取った後、その作品の発展を想像させ文章化させる。 	想像を広げ発展させながら読むことができる。	自分の考えをまとめる力や想像力を養うことができる。

7 基本的な読みの指導過程

読みが深まるとは、子供自身が自らの読みを見直し変容させていくことだと考えるならば、このことが授業の中で成立するためには、どのような指導法や手立てが講じられなければならないのかと同時に、学習がより主体的に展開されるには、どのような学習の流れがよいのかを考える必要がある。ここでは、書く活動を授業の中に取り入れ、そのことを中心として読みを深めることと合わせて、より主体的に学習が展開される授業の流れを考えてみた。子供自ら学習課題を設定し、一人学習の後の磨き合い学習をすすめながら課題解決できるように、次のような指導過程を作成した。

過程	学 習 活 動	学習形態	指 導 上 の 留 意 点	主な書く活動
つ か む	1 教材との出会い	一 斉	・題名やさし絵、作者やその作品について知っていること、時代背景や生活経験などを話し合わせながら、読もうとする意欲を持たせる。	
	2 教材文を読み通す	個 別 一 斉	・新出漢字や難語句をチェックさせながら、全文を読ませる。 ・新出漢字・難語句の一人調べをさせる。 ・理解させるべき語句の指導をする。 ・多様な読みによって全文を読めるようにする。 (自由読み・指名読み・範読など)	言葉調べ 音 読 黙 読
	3 粗筋をつかむ	個 別 一 斉	・登場人物、場面ごとの移り変わり、大まかな話を捉えさせる。(書かせる)	絵すじ あらすじ
	4 初発の感想を書く	個 別	・強く心に残ったこと、疑問に思ったことを書かせる。	初発の感想
	5 感想を話し合う	一 斉	・感想を分類できるような話し合いをさせる。 ・根拠をふまえた感想を発表させる。 ・いろいろな感じ方や考え方に気付かせながら聞かせる ・問題点について話し合わせる。	
	6 学習課題を捉える	個 別 グループ 一 斉	・感想の集中したところ、相違点、対立点などから問題を作らせ、個人課題、共通課題を設定する。 (教材によっては、主題を予想させることもある。)	問題づくり 主題の予想
	7 学習の見通しを立てる	一 斉 個 別	・一人学習の仕方のオリエンテーションをし、手引きの使い方を説明する。 ・学習の順序や問題解決の方法をはっきりさせておく。 ・ワークシートの書き方(要点・重要語句・感想の書き分け方)を理解させる。 ・自分なりの学習課題もはっきり持たせることで読む意欲を持たせる。	学習計画

考 え る	8	学習課題に沿って一人学習をする	個別	<ul style="list-style-type: none"> ・情景の変化や登場人物の言動から、心情を想像できる。大事な言葉に気付かせ、自分の考えをまとめさせる。 ・視写・サイドライン・書き込み・抜き書き・ノートにまとめるなど、書く活動を通して個の読み取りを確実にさせる。 	サイドライン 視写 書き込み 抜き書き	
	磨 き 合 う	9	一人学習したことを出し合って詳しく読む	一斉 個別 グループ 一斉 個別	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の情景や心情を想像しながら読み味かわせる。 ・優れた叙述や表現に気付かせる。 ・大事な言葉を手がかりに、登場人物の心情の変化について読み深めさせる。 ・大事な言葉は、文・段落相互・物語全体へと、読み広げ深めていくように読ませる。 ・さし絵・視写・書き込み・図表化・絵画・心情曲線などの方法により、豊かな読みをさせる。 ・多様な読みを通して理解を深めたり、朗読をさせて読み味かわせたりする。 (役割読み・一斉読み・範読・自由読み・朗読など) ・自分の立場に置き換えて、想像しながら読ませる。 ・お互いの読み取りを磨き合わせて、より確かな深い読みができるようにさせる。 	小見出し 書き加え 構造図 心情曲線 絵画 音読
		10	今までの学習をまとめ、主題について考える	一斉 個別 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・情景や登場人物の心の動きをふりかえさせる。 (粗筋・揭示物) ・題名のつけられた訳について考えさせる。 ・主題について考えさせる。 ・情景や心情が聞き手に生き生きと描けるように朗読させる。 	朗読
		11	終わりの感想をもつ	個別	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなところを発表させたり視写させたりする。 ・自分の考えを登場人物と比較させる。 ・全体をふりかえり感想を書かせる。 (作文指導との関連を考える。) 	感想文
		12	作品について話し合う	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の特徴を気付かせ、作品の時代背景について補説したり調べさせたりする。 	続き話
広 げ る	13	文字・語句の練習をする	個別	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の練習をさせる。(読みかえ・熟語など) ・難語句・慣用句を取り上げ、短文つづりをさせ、その使い方に慣れさせる。 		
	14	評価と発展	個別	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に照らして学習内容を評価する。 ・同じ傾向の作品や同じ作家の作品を紹介し読ませる。 		

Ⅶ 指導の実際

国語科学習指導案

平成4年12月22日(火) 2校時

嘉数小学校 6年3組(33名)

指導者 長田 千代子

1 単元名 情景を想像して

2 単元設定の理由

(1) 単元について

この単元では、作品にみられる特徴的な用語や優れた描写などの「細部」を読み、その対比的な物語の構造に気づき、幻想的な美しいイメージの世界を読み味わうことができる能力をつけたい。

これまで「石うすの歌」「花と手品師」などの物語文で優れた描写を読み味わい、心情や場面の情景を文脈に即して読みながら 作品の主題を捉える学習をしてきた。子供達は、人物の気持ちや場面の情景の叙述や描写を味わいながら読むこと、重要語句をおさえて心情描写、情景描写などの表現に即した読み取りをし、人物の心情の変化を捉えることはある程度できた。しかし、作品の中に展開される美しい想像の世界を深く豊かに想像することは、不十分であった。表現の優れたところを読み味わうことについても、巧みな言葉の使い方や表現上の工夫を感覚的に捉える力が弱く、味わって読むことのできる子は少なかった。そこで、作品「やまなし」を位置づけ、五月の春陽の喜びと修羅の世界が共存する情景、十二月の厳しい冬ではあるが五月とは違う心の安らぎ、これから先への明るい平和と幸せを予想させる情景など、二枚の青い幻灯の世界をイメージ豊かに想像し対比して読み取るなかで主題を捉えさせたい。そのことは、六年の重点目標である「主題を読み取り、読み取ったことに対して自分の生活や意見と比べ感想を深める。」につながることである。また、かわせみの出現で恐怖や死の不安におそれながらも、やがて、その世界をくぐりぬけて平和で静かな生活を迎えるかのに親子の気持ちを読み取らせることにより、やさしい心を持ち美しいものを求め、より豊かな生き方をめざす態度を育てたい。それは、学校目標の「進んで学び よく考える子」の具現化を図ることにつながるものと考えられる。

(2) 児童について

これまで物語文では、心情を読み取り主題について考えたり、人物の交流の中で生まれる美しい想像の世界を読み味わったりなどの学習をしてきた。しかし、児童の読みの能力は、十分身につけているとは言えない。これまでの学習の中で見られた主な実態をあげると次のようである。

- ① 初発の感想では、部分的なものから作品の主題にふれたものまであり能力差は大きい、作品を読み深めていこうとする意欲は見られる。
- ② 人物のおかれている状況を大まかに捉えることはできるが、表現の細部まで読み取り、行間にかくれている気持ちを豊かに想像する点においては、まだ弱さがある。
- ③ ファンタジー的な物語を素直に読み浸ることは、不十分である。

- ④ 粗筋的な外面上のおもしろさだけで読み、重要語句、心情描写、情景描写など表現に即して深く読み進めることが不十分なため、主題への迫り方が弱い。
- ⑤ 情景や人物の心情などを、聞き手にも内容が味わえるように朗読できる子は少ない。
- ⑥ 読後の感想は、自分なりにまとめることができる。だが、読み取った主題や人物の生き方作者の考え方などに焦点を当て、自分の生活と比べながら考えを深めることが弱い。
- ⑦ 学習後、作品の続き話を作ることは意欲的に取り組めた。
- ⑧ 日頃から、子供達に読書を勧め、朝の会で読んだ本の紹介などをさせた。男女を問わず読書好きな子が多く、読書傾向として物語や推理小説がよく読まれ、時々、日記の中にも読書からの話題が登場する。だが、図書を活用した発展学習の取り組みまでには至っていない。

(3) 指導について

- ① 主体的な学習を大事にする。
 - ・学習に入る前に、部分視写 音読をさせ、作品の大筋を捉えさせたい。
 - ・主体的な学習ができるように、教材に応じた適切な問題作りを位置づけ、読みの目当てを持たせて読みを深めさせたい。
 - ・一人学習の方法や手順がわかり、読み深めができるようなワークシートを作成し、事前に一人学習をさせ自分なりの考えを持って授業に臨むようにさせたい。
- ② 書く活動を適宜取り入れる。
 - ・重要語句をおさえ意味の関わりを捉えさせるために、部分視写法を取り入れたい。
 - ・一人学習の段階で、サイドライン、書き込み、抜き書きなどの書く活動を多く取り入れることにより、文章に即して場面や情景をイメージ豊かに読ませたり、登場人物の心情を豊かに読み取らせたりして、主題を確かに捉えさせたい。
 - ・一人学習で読み取ったことを話し合い（磨き合い学習）で深めさせ、さらに補い書きをさせることにより、一人一人の読みを確かめ豊かなものにした。
- ③ 評価
 - ・一人一人を生かすために、毎時間の指導過程における形成評価を重視していきたい。
 - ・ワークシートの読み取りをもとに、一人学習での児童の反応を教師が事前に把握し、次時の学習へ生かすような方法を取りたい。

3 単元目標

(1) 技能目標

- ・子がにや川底の様子、でき事などを豊かにイメージ化し、情景を味わって読んだり、造語、色彩語、擬態語、比喩表現などを効果的に使った優れた表現を読み味わったりすることにより、言葉に対する感覚を豊かにする。
- ・二つの場面を対比させ、その関連を考えることを通して主題に迫り、同一作者の他の作品を重ねて読むことによって感想を深めることができる。
- ・場面の情景がよく伝わるように朗読することができる。

(2) 価値目標

- ・かのに親子の気持ちを読み取ることにより、やさしい心を持ち美しいものを求め、より豊か

な生き方をめざす態度を育てる。

4 指導内容

- ・主題に迫るための学習問題を設定すること。
- ・場面ごとの人物の気持ちや情景のつながりを考えて読むこと。
- ・優れた表現を読み味わい、イメージを豊かに広げること。(主題に迫ること)
- ・人物のものの見方、考え方、感じ方について 自分の考えをはっきりさせること。
- ・読み取ったことに対して、自分の生き方や意見と比べ感想を深めること。
- ・聞き手にも内容がよく味わえるように朗読すること。
- ・目的に合った適切な本を選び効果的に読むこと。

言語事項

- ・語句の意味を的確に理解して
- ・語句と語句のつながりに気をつけて
- ・場面相互の関係に気をつけて
- ・助詞 助動詞のはたらきに気をつけて

5 教材名 「やまなし」

6 教材の基礎的研究

(1) 言語能力の観点から

この教材は、「五月」と「十二月」という二枚の青い幻灯を構成の主軸にし、しかも、擬声語、擬態語、比喩などを効果的に使って情景描写がなされている。表現に即して、場面の情景や登場人物の気持ちの変化を想像しながら深く広く読ませることにより、主題に迫らせたい。

また、豊かな想像力を養うために擬声語、擬態語、比喩などはたらきを的確に読み取らせたい。児童は、一年の季節を代表する「五月」「十二月」の大自然の営みの情景を思い描くことから、自然への親しみや関心を持つものとする。

(2) 教材の内容価値

春の訪れは、自然界の生あるものすべてに生命の息吹と躍動を呼び覚ます。谷川のせせらぎの音、春陽の光、川面に浮かぶ水草、水底に生息するもの、そして、新しい生命の誕生。その喜びの中にも「死」は容赦なくやってくる。それが、自然界の摂理なのである。また、地表のすべてのものが活動を停止しものみな雪におおわれた時でも、雪の下大地の下には、春の訪れを待つ小さな生命がじっとうずくまっていることも事実である。「生と死が共存しているのが自然であり人生でもある。」「やまなし」は、このような自然の営みの中で生きるということの意義と価値を問う作品である。主として、かにの親子に視点を置き、父かにの子がにに対する態度やほのぼのとした家族の温かさ、自然の摂理を理解させたい。そこから、生あるものの生きざまについて自分の考えを持たせ、人間性を豊かにしていきたい。

(3) 文章構造図(紙面の都合により略)

(2) 指導計画 (12時間扱い)

次	(時)目標	学習活動	指導上の留意点	書く活動	評価(方法)
第一 次	(1)全文を読んで感想を書くことができる。	1. 学習のめあてを確認する。 ・単元のめあて ・本時のめあて 2. 全文を読み、あらすじをつかむ。 3. 感想を書く。	・学習に入る前に音読や難語句の意味調べなどをさせておく。 ・新出漢字、読みかえの漢字は、短冊に書いて示す。 ・「教材カセット」を聞きながら、サイドラインやかこみを入れさせる。 ・読みの実態を捉えるために、観点を与えず各自の思うままに書かせる。	サイドライン あらすじ 感想 ワークシート No.3 No.4	・初発の感想を書くことができたか。 (ワークシート)
	(2・3)学習感想をもとに学習計画を立てることができる。	1. 学習のめあてを確認する。 2. 感想を発表する。 3. 感想をもとに学習問題を作る。 個人 ↓ グループ ↓ 全体 4. 学習計画を立てる。	・各自の学習問題をもとに話し合っ作らせる。 ・グループでの問題作りは、各場面から出るようにさせる。 ・個人の学習問題は、書き分けさせて随時解決させる。	問題作り 話し合い ワークシート No.5	・各自学習問題を作ることができたか。 (ワークシート) ・グループでの学習問題をまとめることができたか。 (ワークシート発表)
	(4)賢治の作品を知り、これからの読み取りに生かすことができる。	1. 学習のめあてを確認する。 2. 「よだかの星」を読む。 3. あらすじや感想を話し合う。 4. その他の作品を紹介し合う。	・読み聞かせた後、各自で読ませる。 ・同一作者の類似テーマを扱った作品を重ね読むことで、表現やテーマへの読み深めへつなげたい。	サイドライン あらすじ 感想 ワークシート No.6	・宮沢賢治の作品を知ることができたか。 (ワークシート発表)
	(5)一人学習の仕方がわかり、一人学習をすることができる。	1. 一人学習のしかたのオリエンテーションをする。 2. ワークシートの書き方を知る。 3. 一人学習をする。	・一人学習の手引きの使い方を学習の順を追って説明する。 ・要点、重要語句、感想の書き分け方を理解させる。 ・個人やグループ指導をする。	ワークシート No.1	・一人学習のしかた、ワークシートの書き方を理解することができたか。 (観察ワークシート)

次	(時) 目 標	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	書く活動	評 価 (方法)
第 二 次	(8) かにの成長したかにの子供らの兄弟が月夜の情景を読み取ることができるとき、かにの親子の	1. 本時の学習問題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 一人学習を確かめる場であることを意識させる。 「白いやわらかな丸石」「小さなきりの水しょうのつぶ」「金雲母のかげら」「ラムネのびんの月光」など表現をおさえながら、「五月」の情景との違いに気付かせる。 かにの兄弟が言葉も失うほど美しい情景であったことを理解させる。 会話の楽しさを通して、かにの兄弟の仲のよさ、無邪気さ、おもしろさを読み取らせる。 	音 読	<ul style="list-style-type: none"> 月夜の水底の情景やかにの子供らの気持ちを読み取ることができたか。(ワークシート発表)
		2. 学習部分を音読する。		サイド ライン 抜き書き	
3. 月夜の水底の情景を読み取り話し合う。	書き込み 話し合い				
4. かにの子供らの気持ちを読み取り話し合う。	朗 読 ワークシート No.10				
5. 朗読をする。					
	(9) やまなしが突然おちてきたとき、かにの親子の	1. 本時の学習問題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 一人学習を確かめる場であることを意識させる。 やまなしの落下とかわせみと比較させ、外界から水中への訪問の大きな違いを理解させる。 「横歩き」「おどるように・・・追いました。」などから、かにと影法師のユーモラスな情景を捉えさせ、冷たい水の底でありながら非常に温かい雰囲気であることを感じ取らせる。 「やまなしのいいにおい」「おいしいお酒」などから、自分たちに楽しい生活を約束させるものを追う幸せをもたらすものとして、「やまなし」を捉えさせる。 「いいにおい」「波は青いほのおを上げ」「月光のにじがもかもか…」「波は青白いほのおをゆらゆら」「金剛石の粉を」など、語句や文をおさえて静かな情景を豊かにイメージさせる。 	音 読	<ul style="list-style-type: none"> かにの親子の気持ちを読み取ることができたか。(抜き書き・発表) 十二月の美しい情景を読み取ることができたか。(ワークシート)
2. 学習部分を音読する。	サイド ライン 抜き書き 書き込み				
3. やまなしの落下とかにの親子の様子を読み取り話し合う。	話し合い				
4. かにの親子の帰っていく様子と水面の情景を読み取り話し合う。	視 写				
5. 朗読をする。	朗 読 ワークシート No.11				

次	(時)目標	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	書く活動	評 価 (方法)
第 三 次	本時 (10) 五月と十二月とを対比して読み、 主題について考えることができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前時までの学習を想起し、本時の学習問題を確認する。 2. 「五月」「十二月」のそれぞれの持っている意味について考える。 3. 「やまなし」という題について考え話し合う。 4. 朗読をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を想起させ、本時へのつながりを確かにさせる。 ・季節、日光と月光、水中の様子、かへの成長、かわせみとやまなしとの対比などをおさえたい。 ・「やまなし」に象徴される世界こそが、作者の願いであり理想なのだという事に気付かせたい。 ・「やまなし」の落下の場面を部分朗読させ、朗読を通して情景をイメージ化させる。 	話し合い 主題修正 朗 読 感 想 ワークシート No.12	<ul style="list-style-type: none"> ・「五月」と「十二月」の違いについて理解できたか。(ワークシート発表) ・作品の主題に迫ることができたか。(ワークシート)
	(11) 感想をまとめて書くことができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習のめあてを確認する。 2. 全文を黙読する。 3. 主題について考えたこと、話し合ったことをもとに感想を書く。 4. 感想を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の構成、作者の願いなどを念頭において、主題にかかわるような感想文を書かせるようにする。 ・初発の感想と比較し、自分の読みが深まっているかどうか。「やまなし」に対する考え方が変わったかどうかを考えさせる。 	感 想 ワークシート No.13	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次感想を書くことができたか。(感想文)
第 四 次	(12) 賢治の他の作品を読み、 感想を発表することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習のめあてを確認する。 2. 宮沢賢治について調べたことを発表し合う。 3. 宮沢賢治の他の作品を紹介し合う。 4. 「雨ニモマケズ」を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習と平行して調べさせておく。 ・発展学習として位置づけ、自由読書へとつなげていく。 	話し合い 音 読 ワークシート No.6 No.15	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を発表することができたか。(ワークシート発表)

8 本時の指導 ($\frac{10}{12}$ 時)

(1) 本時の目標

「五月」と「十二月」とを対比して読み、主題について考えることができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	書く活動	評価方法
つかむ 考える 磨き合う まとめる	<p>1. 前時までの学習を想起し、本時の学習問題を確認する。</p> <p>2. 「五月」「十二月」のそれぞれの持っている意味について考える。</p> <p>・「五月」「十二月」の対照表を書く。</p> <p>・「五月」「十二月」の違いについて考え話し合う。</p> <p>3. 「やまなし」という題について考え話し合う。</p> <p>・「かわせみ」と「やまなし」との対比から考える。</p> <p>4. 朗読をする。</p> <p>5. 学習のまとめと次時の予告を聞く。</p>	<p>・ 前時までの学習を想起させ、本時へのつながりを確かにさせる。</p> <p>・ 事前に一人学習で書かせておく。</p> <p>・ 季節、日光と月光、水中の様子、かへの成長、かわせみとやまなしとの対比などを押さえたい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>十二月</p> <p>月光 初冬 (水面) ~~~~~</p> <p>やまなし</p> <p>いいにおい おいそう おいしいお酒</p> <p>生</p> <p>冷たい水底</p> <hr/> <p>かへの親子 幸せ 幸福 希望 平和</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>五月</p> <p>日光 初夏 (水面) ~~~~~</p> <p>かわせみ</p> <p>魚</p> <p>クラムボン</p> <p>死</p> <p>青白い水底</p> <hr/> <p>かへの親子 不安 恐怖 恐ろしい</p> </div> </div> <p>・ 「五月」が殺し殺される「現実」の厳しい世界であれば、「十二月」は、静かで平和な「理想の世界」であることを捉えさせる。</p> <p>・ 「かわせみ」と「やまなし」の違いをはっきりさせ、「やまなし」に象徴される世界こそが、作者の願いであり理想なのだということに気づかせたい。</p> <p>・ 初めに読みで想定した主題と賢治の他の作品なども考え合わせて、主題を読ませる。</p> <p>・ 「やまなし」の落下の場面を部分朗読させ、朗読を通して情景をイメージ化させる。</p>	話し合い 感想 朗読 ワークシート No.12	<p>五月と十二月の違いについて理解できたか。 (ワークシート・発表)</p> <p>作品の主題に迫ることができたか。 (ワークシート)</p>

OK

学習問題 No.12

「五月」と「十二月」とを比べて詠み、主題について考えよう。

一 二枚の幻に登場するものの見方（おぼや）
それぞれの世界と考へよう。

五月A	光 日 (水面) 加掛 魚 弱肉強食 青い木底	かたじけなく 不安	世界
十二月A	光 月 (水面) 加掛 丸い 楽しい	かたじけなく 楽しい	理想世界

二 五月と十二月を比べて詠み、おぼやを考へよう。

五月B	動物植物生活 花、冬	五月屋敷 五月夜話	五月大宴
十二月B	五月大宴	五月夜話	五月屋敷

三 題名「五月」と「十二月」を比べて詠み、おぼやを考へよう。

五月は、春にあたり、自然の恵みを受け、人間も喜び、明るい世界である。五月は、人間悲しい事もあるが、五月は、春にあたり、自然の恵みを受け、人間も喜び、明るい世界である。

十二月は、冬にあたり、自然の恵みを受け、人間も喜び、明るい世界である。十二月は、冬にあたり、自然の恵みを受け、人間も喜び、明るい世界である。

五月は、春にあたり、自然の恵みを受け、人間も喜び、明るい世界である。五月は、春にあたり、自然の恵みを受け、人間も喜び、明るい世界である。

十二月は、冬にあたり、自然の恵みを受け、人間も喜び、明るい世界である。十二月は、冬にあたり、自然の恵みを受け、人間も喜び、明るい世界である。

五月は、春にあたり、自然の恵みを受け、人間も喜び、明るい世界である。五月は、春にあたり、自然の恵みを受け、人間も喜び、明るい世界である。

十二月は、冬にあたり、自然の恵みを受け、人間も喜び、明るい世界である。十二月は、冬にあたり、自然の恵みを受け、人間も喜び、明るい世界である。

(4) 感想文

(一次感想)

諫 山 武 尊

「やまなし」を読んで、なぜ、この本の題が「やまなし」となったのか疑問に思った。またこの本は、たとえば多く使っているなど思った。五月のイメージは、何となく想像できたが、作者の言いたいことは言いたい何なのか、まったく分からず不思議なことばかりだった。「クラムボンに死んだよ」といいながら、「クラムボンに笑ったよ」と続いたり、やまなしがほっておくと酒になったという所など疑問に思った。登場人物が動物というのも疑問である。

この作品は、繰り返し読んでも意味が分からなかったけど、主題は五月と十二月の世界、季節の感じ方だろうか。もしかすると、かにの親子を通して人間の一生を書いているのかも知れない。

(二次感想)

五月は暖かい季節だが、不気味で怖い・不安という感じをただよわせている。対して、十二月は寒い季節だが、やまなしが落ちてきて幸福・楽しみという感じがあるということ、何度も読んでみて分かった。宮沢賢治の言葉の美しさ、おもしろさ、するどさに心をうばわれ、水底の情景やかにの兄弟の楽しい会話など、目に浮かぶようで楽しく読んだ。そこで、五月と十二月で不幸があった後から幸福がきている事から、作者は、いやな事があっても楽しい事・うれしい事が次にまっているのががんばれと言いたいのだろうという事が予想できた。

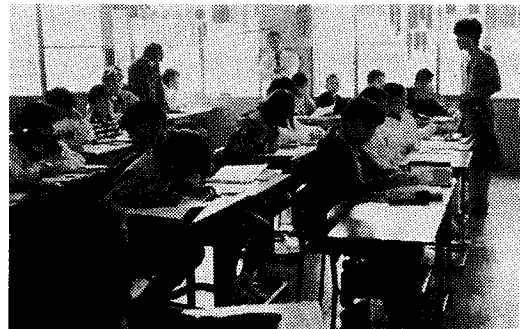
宮沢賢治が書いている「注文の多い料理店」や「銀河鉄道の夜」という他の本を読んでみたけど人間の何を何かに例えて、何かを訴えようとしている作者の気持ちが伝わってくるような感じがした。一読しただけでは難しく分からないが、きっと平和な世界・理想の世界を求めているにちがいないと思った。「やまなし」を通して作者が言おうとしている事は、やっぱり悲しみのあとの幸福というものだろう。悲しみの後におちこんでばかりいたら何もおきないので努力をして楽しみを味わえばいいなと思った。「やまなし」からこの事を学んだので、悲しみがあっても、苦しい事があってもくじけずがんばりたい。

(二次感想)

野 里 祥

ぼくは、「やまなし」を読んでとても勉強になりました。なぜかという、動物の暮らし、世の中のしくみ、明るさ、暗さ、豊かさ、平和、幸福など、いろいろな現実を知ったからです。作者宮沢賢治は、ユニークな物語を書いて、とてもぼくを楽しませてくれました。本来五月は動物や植物が生き生きと活動する明るくてとても平和な季節なのに、かにたちは、びくびくおどおどし不安で不気味で怖い世界でした。十二月は、寒さに動植物は活動をやめ冷たく厳しい季節なのに、豊かで平和、安心感、幸せが積み積もっています。物語と現実との対比、五月と十二月との対比、言葉の対比、情景の対比、気持ちの対比、事件の対比など、五月と十二月を読み比べていくと、宮沢賢治の創造力のすごさにおどろかされます。

宮沢賢治は、「うれしい時、楽しい時、悲しい時、さみしい時など、ひとつずつ大事にしたら人生悔いはない。」と言いたいと思います。また、「かにはこんなに平和だよ。ぼくたち人間も平和になろう、豊かになろう、力を合わせてがんばろう。」と、言っているような気がします。ぼくは、自分なりの「やまなし」を求めて、一生けん命努力していきたいと思います。一日一日を大事にし悔いのない豊かな生き方をしたいです。



Ⅷ まとめと今後の課題

- (1) 課題づくりから解決まで一連の学習を経験することにより、全体的な学習の見通しや活動、考え方等、学習の仕方を学ぶことができた。
- (2) 「読みのめあて」をもったことで、学習への取り組みが主体的になってきた。しかし、適切な課題づくりをさせるための手立ては、十分であったとは言えない。
- (3) 書く活動に重点をおいた一人学習を取り入れたため、自力で何とか読み取ろうと、文章をていねいに読むようになってきた。書く活動は、単元の目標と教材の内容などと照らして精選し読み深めの手立てとしたい。
- (4) ワークシートの活用で一人一人の読みの実態が把握でき、個別学習に役立てることができた。
- (5) 教師が指導法を研究することにより、国語学習への興味・関心をもつ子がふえた。

豊かな読みができるようになるためには、「自ら学びたい」という子供達の心を育て、学び方の訓練をしなければいけない。こうした教師の手立てがあってはじめて、子供達の持っているよりよい力が発揮され、豊かな読みもできるようになっていくのだと思う。教師もまた、より質の高い授業、わかる楽しい授業を求めて常に自分を反省し、指導方法の改善をしていかなければならない。子供達も教師も互いに磨き上げられたところで、豊かな読みはつくり出されるのだと思う。常に自分を磨き、子供達とともに伸びていく教師でありたい。得るものの大きかった今回の研修を糧として、今後は、実践研究を地道に積み上げていきたい。

今後の課題

- ・文学教材で培うべき技能・能力をそれぞれの教材ごとに明確に精選し、系統的な指導を計画したい。
- ・一人学習で読み取ったことをもとに、お互いに磨き合い深め合う学習をもっと充実させることで、読みを更に豊かなものにしていきたい。
- ・効果的なグループ学習の工夫や一斉授業での個の生かし方などの実践的な研究を一層強化していきたい。
- ・まだまだ教師主導型であるので、発問を工夫し、一人学習が存分に生かせるような授業を設計したい。あわせて、一人一人に確かで豊かな読みの力をつけていくためにも、診断的評価・形成的評価・総括的評価を工夫し計画的に行いたい。

最後になりましたが、これまで、ご指導と励ましを下さいました所長の嘉手苺喜郎先生、県教育センターの諸喜田和子先生、本市教育委員会の先生方、当研究所指導主事伊波義雄先生、運営委員の先生方、普天間小学校の新垣幸枝先生、大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。また、嘉数小学校の校長先生はじめ諸先生方の温かいご声援は、大きな支えになりました。感謝申し上げます。

<主な参考文献>

瀬川栄志 外一名	『授業に生きる教材研究 小学校国語科6年』	明治図書
本堂 寛	『国語科の基本的能力』	明治図書
文部省小学校課	『初等教育資料 小学校教育課程研究指定校集録』	東洋館出版社
国語教育を学ぶ会	『子どもが生きる授業 国語六年』	小学館